

圓福寺報

謹賀新年

平成二十六年元旦



圓福寺報 第六十四号
 平成二十六年一月一日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

干支色紙: 星久喜町吉田和子さん作

目次

年頭法話	2
「駄馬の歩み」	2
土曜会・写経会・茶禅会	7
二順目第十二回	8
「四国歩き遍路の旅」	8
第十三回四国あるき遍路のご案内	11
本山学徒研修会を終えて	12
圓福寺学徒 田中 竜波	12
第二十二回圓福寺寺子屋	14
「禅童会」	14
続・寺から半里	16
～わが町かど探索～	16
園生町 熊倉 浩さん	16
六川花園幼稚園 園だよりから	20
「げん体験」	20
第三十五回花園会ゴルフ大会	21
境内墓地のご案内	21
市原別院だより	21
——山野僧雜記	21
平成二十六年年忌表・	22
平成二十五年下半期日録抄	22
平成二十六年行事予定	23
花園会新年会のご案内	24

駄馬の歩み

あけまして

おめでとうございます。

毎年、年頭のお話には、干支にちなむものを考えるのですが、今年は午(馬)歳ですから、すぐに「馬頭観音」という観音様が思い浮かびました。ちょうど、昨年秋の四国歩き遍路で最後にお参りした本山寺の本尊様が馬頭観音でした。なししろ、馬頭観音を本尊様にするお寺は全国的にも数が少なく、



関東では秩父霊場の橋立寺、関西では西国霊場の松尾寺、そ

して四国七十番札所本山寺などが有名な所だそうです。その一つに、昨年歩き遍路でお参りしたのです、自動車なら少し時間があるから次の札所までと欲張っても、難なく行けますが、なにしろ歩きですから、ちょうど最後が馬頭観音を祀る本山寺になったというのは、きつと何かのご縁にちがいない。縁だけに、今年は縁起がいいかもしれないと、こっそりほくそ笑んでいます。

■馬頭の民間信仰

馬頭観音は、お寺の本尊様としてお会いするよりも、それこそ遍路道を歩いている途中によくお会いします。それも、集落

の入り口や出口のあたり、つまり集落から見れば村はずれに、「馬頭」と二文字だけ彫った石塔が建っていたり、「馬頭観音」と彫られたものも目にします。

とはいえ、これらの馬頭観音は、その名前から、日本の民間信仰として人々の間に広まり、牛馬や家畜の守り本尊として祀られるようになり、牛馬の無病息災を願ったのだそうです。また、馬と共に道中を行きかう人々にとっては、道中の安全を祈ってのものだったり、生活とともにした馬が亡くなった後、その冥福を祈るものとして建てられたりしたようです。

■忿怒の観音さま

そのような日本の民間信仰となる以前から、仏教の菩薩として馬頭観音はいらっしゃいました。

馬が絶えず草を食べているほど大食であることから、馬頭観



馬頭観音が日本の民間信仰と
なっているもの
近なもの
になるよ
うに、か
つて馬は
農耕に使

音は私たちの煩惱を食い尽くして、私たちが煩惱から解放してくださる仏教の仏さまとしていらっしやいます。そして、駆けることの得意な馬ですから、四方八方駆け巡って、たくさんの人々を救ってくださるとも言われます。

そのお姿は、尽きることのない煩惱を減ぼすことの困難さを表すかのように、忿怒のお顔をされ、頭の上には馬の顔をいただいています。馬頭というのですから、一般的には頭に馬のお顔ですが、千葉県には観音様が馬に乗った姿をした馬頭観音があるそうですから、ドライブの折にでも探してみてもいいでしょう。

われたり、人や物の運搬に使われたりと、日本人の生活に欠かせない物でした。そんなところから、お盆のお飾りに牛と馬が使われるのかもしれない。でも最近では、競馬や乗馬クラブや観光地の遊覧馬車ぐらいで見ることができないように変わってしまった。

■ 禅語の中の馬

そんな身近だった馬ですから、もちろん禅の言葉の中にも見つけることができます。

その一つに、「良馬鞭を窺うりようめむち うかがすも、已ちに遅八刻」という禅語があります。

ここで言われる馬は、おそらく軍馬のことだろうと思います。生死を賭しての戦場で、このときばかりに駆け出さなければならぬ時に、馬に鞭をあてます。馬の良しあしの一つは、その時の反応です。駄馬は尻を叩かれてようやく走り出し



ますが、
良い馬、
は、鞭が
振り上げ
られると
同時に、

あるいは鞭が動き始めるか始めのタイミングで駆け出す振り上げられると同時に走り出すような良馬でも、まだまだ遅い、それも八刻も遅いということです。ちなみに、八刻がどれぐに調べてみました。この禅語は中国のものだと考えられますから、一日を一〇〇刻とした時間の単位を使っていますので、一刻約十四分半として、八刻はおよそ二時間ということになります。とにかく、遅八刻といったら、とんでもなく機を逸して、それが鞭の先端がびくりと動いたと同時に駆け出す良馬でさえも遅八刻なわけで、俊敏な動きを強調しているわけで

す。
 そして、禅語ですから、当然修行僧に対して語ったわけで、禅宗の坊さんだったらそれぐらゐの素早い反応、素早い対応がでなかつたらいけないと、厳しい師匠は言いたかつたのでしよう。なにやら、忿怒のお顔の馬頭観音を思い出すような厳しさです。

■雨受けのタガ

昔、ボロ寺に和尚さんと小僧が二人住んでいたそうです。圓福寺も、昨年の大嵐の時には、本堂の屋根から雨漏りしていると見えて、天井にポタンポタンと音がして、ついに廊下にまで落ちてきました。そのボロ寺も同じように雨が降ると雨漏りがするようでした。



上に、ポタンポタンと雨漏りが始まりました。板の間ならともかく、畳の上に落ちて来たのは大変だと、あわてて和尚さんが何か雨漏りを受けるものを持って来なさいと小僧さんに言いました。はいと二人の小僧さんは走っていききました。一人は、台所に行けば桶でもあると思つたのですが、そういえば昨日近所のおばあさんが庭でこれたお花をたくさん持ってきて、桶は花でいっぱいだったなあ。今度はバケツをと思つて井戸端に行く、昨日から水に付けた洗濯物がそのままのになに気づく始末。そんなこんなでなかなか適当なものを見つけれず、右往左往しています。

一方、もう一人の小僧さんは、雨漏りが畳に落ちてきて、これは大変とばかり、本堂の裏に駆けて行って、しばらく使わずに置いてあつた樽をつかむと急いで本堂に戻っていききました。ところが、しばらく使っていない樽は、途中で空中分解してタガだけになってしまいました。それでも小僧さんは、本堂の和尚さんのところにタガだけになってしまった樽、つまりはタガだけを差し出しました。すると、和尚さん、樽のタガを受け取ると、雨漏りのする畳の上に置いて、何事もなかったようにお経の続きを読み始めたのだそうです。



さて、台所に行ったり井戸端に行ったりと右往左往していた小僧さんは、ようやく風呂場に行つてタライを持って本堂に戻ってきました。すると、お経を読んでいた和尚さんが、「遅い！」と大喝一声して叱りつけました。

普通に考えたら、雨漏りを受けることのできないタガを持つていった小僧さんが叱られずに、タライを持ってきた小僧さ

んの方が叱られるなんて、おかしいと思います。

しかし、このポロ寺は禅宗の、しかも小僧を育てているお寺です。雨漏りも修行の格好の素材となるのです。禅の要点を表す言葉としてよく言われるのが、「いま・ここ・自分」で、常にそれらを考えての行動が要求されるのです。ですから、雨漏りがしたら、何が大切かというところ、とにかく早くなんとかしなければ、なのです。そこで、壊れた樽でもなんでも持つていくことが、正しいことになるのです。雨漏りを受け止められようがどうかは、二の次というわけです。

■早・正・美・楽

ところが現代は、早いというのは当たり前で、牛井屋さんに行つて注文をしたらあつという間に出てきます。良馬の鞭を窺うみたい、注文の前にこっちが何を食べたいのか知っている

んじゃないかと思えるほどの速さにびっくりしたことがあります。

交通機関も早さを追求して、二〇二七年にはリニア中央新幹線が東京～名古屋間を四〇分で結ぶのだそうです。現在の稲毛～東京間の時間に相当します。東海道を歩いて行き来していた時代には、馬が現代のリニアモーターカーのような存在だったかもしれないが、現代は、とにかく交通機関でも、荷物の宅配便でも、ピザの配達でも、早いことがいいことになっていて、遅八刻なんて絶対ありえませんが。

そして、早いだけでなく、同時に正しいということが求められます。間違いでもしようものなら、すぐにクレームです。会社にはクレーム専門の部署があつて、朝から晩までクレーム処理をしているそうです。



早く正しくと来て、次は美しくです。ひどいところのモーレツ社員なんて言葉はもう聞かなくなりましたが、仕事もスマートフォンしなければ格好悪い。生活もスタイルもファッションもお化粧も、美しくです。

最後は、楽です。楽をして儲けるとか、楽をして働くとかで、楽しむほうの楽ではありません。人より楽をすることがよいことのように錯覚を起こしています。

これらの現代を表す言葉である、早く・正しく・美しく・楽を「良馬鞭を窺うも・・・」の言葉に当てはめてみるとどうでしょう。

早くに対しては遅八刻でしたが、正しくに対しては、どんなに正しいと思つて行動しても、中にはへそ曲がりや反対するの「邪八万」。反対派がごまんといます。

美しくは、ファッションやお化粧は好みがありますから、八

方美人にちなんで「醜八方」。楽はずる賢さにつながるのので「狡八百」、ウソ八百と言いますから・・・と徹底的に否定されてしまいます。なかなか良馬にはなれそうもありません。

■駿馬の足踏みに勝る

でも、良馬になれそうもないなどがっかりすることはありません。

馬にまつわる昔の言葉に、「駄馬の歩みは、駿馬の足踏みに勝る。」とあります。

ここで、駄馬のことを間違えてはいけません。駄馬というと役に立たない馬とか、のろまな馬と考えがちですが、ここでいうところの駄馬は、荷駄馬という荷物を載せて運ぶ馬のことだと思えます。そんな駄馬の姿を見ることもなくなりましたが、子どもの頃、町にあった瓦工場に瓦の材料となる粘土を運んでいる馬の姿を思い浮かべます。

粘土を満載した馬車を引いて、坂の途中の瓦工場に登っていく馬



は、それこそ一歩一歩足を踏ん張って登って行きました。子ども心にかわいそうだなとか、すごい力だなと思いつつ見ましたが、それよりも馬が落としたうんこが子どもの興味をそそり、馬のうんこを踏んだら足が速くなるとか言って、だれが踏んづけられるかなんて、大騒ぎしたものです。そんな駄馬も、春のお祭りではきれいに着飾って、おみこしの行列で神主さんに乗せていました。いつもの駄馬が、駿馬に見えました。

ともかく駄馬は、重い荷物を背中に括り付けているので、その歩みはゆっくりです。一方、駿馬といわれる馬は、鞭をあてられたら早く走ることができま

す。その駿馬が足踏みをして、今にも走るぞという姿をしています。俺は走り出したら早いのだぞと言わんばかりです。しかし、一向に走り出しません。その間にも、駄馬は重い荷物を背負って、ゆっくりとゆっくりと歩いて行きます。

時が来たら走り出すのではなく、いかに駿馬といえども、禅の要点「今・ここ・自分」にはすぐわれないのです。早くなくとも、周りに非難されようとも、スマートでなくとも、つらくても、「今・ここ・自分」を大切に少しづつなら歩んでいくことができそうです。

早・正・美・楽を求めずに、「駄馬の歩みは、駿馬の足踏みに勝る。」今年は、そんな生き方はどうでしょうか。

このお話が、「馬の耳に念仏」とならないことを願って、お話を終わりにいたします。

土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、各種体験などをしながら懇親・談笑する自由空間です。たくさんの方の縁が広がります。

【期日】

- 一月十九日(日) 花園会新年会
- 二月十五日 仏教シアター
- 三月(未定) 法話会
- 四月十九日 歩禅会
- 五月十七日 市原ボランテラ
- 六月十四〜十五日 歩禅会
- 七月二十六日〜二十七日 禅童会お手伝い
- 八月二十三日 地藏盆お手伝い

【会費】

- テーマイベントの後、懇親会
- 花園会員 男性 二千元 女性 千円
- 花園会員外 男性 三千元 女性 千円

【申込】

詳細は、行事ごとにご案内いたしますので、奮ってご参加ください。

写経会

般若心経を写経いたします。大きめな字でお手本が印刷された、とても書きやすい写経用紙を使用しています。お道具の準備から毛筆の基礎なども親切にご指導いたします。

【前期期日】

- 二月二日 六月二十九日
- 三月二日 八月三日
- 四月六日 九月七日
- 五月十一日 十月五日
- 六月一日 十一月九日

【後期期日】

【時間】

午前十時〜十二時

【会費】

一期五回で、花園会員三千元 会員外 五千元

【講師】

齊藤 加代子先生・住職

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。



茶禅会

日本の茶道は深く臨済宗の教えを随所に体現しております。「わかりやすい」をモットーに、基本を大切にしながら茶禅会を目指します。ウン十の手習いでも構いません、お寺で茶道に親しんでくださる皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】

毎月第二・第四火曜日 午前十時〜

【会費】

月二千元

【講師】

圓福寺寺庭 宮田 宗尚

【服装】

白い靴下(それ以外は自由。)

【用意するもの】

裏千家用の扇子・帛紗・懐紙 (茶禅会で購入することもできます。)

【定員】

五〜六名

【申込】

お寺までご連絡ください。ご不明な点など、何なりとお寺までお問合せください。



四国あるき遍路の旅

2 巡目第12回

平成25年11月15日(金) ~ 16日(日)

参加17名



本山寺の五重塔をめざして歩く。

雲辺寺へ出立

スーパーホテル四国中央には、温泉大浴場もあり、朝食には焼きたてのパンもあります。あまりの快適さに、今日の雲辺寺行きが難所が際立たなければいいなと思いつつ、焼きたてのパンをほおばって、いざ出立。

七時から開いているイオンで昼食を調達し、一貫田バス停から歩き遍路の道と合流する平山まで移動。途中、昨日お参りした三角寺がある山が目の前にそびえているのが見えしました。

山の中の集落にあるバス停も、なんとGoogleのストリートビューで確認することができ、タイムマシン

のようなバスから降りても、全く迷うことなく歩き始めることができます。1日中、歩くぞ！

まだ平ら

バスを降りたところからは下る一方で、今日の登りを思うと、せつかく登ったのになと思っ
てしまいます。雲辺寺への道で一番標高が低いところにあるのが、「椿堂」という別格十四番札所。病を封じた椿の杖を埋めたところ、この杖から椿が芽を出したといわれ、「弘法大師御杖之椿」というのだそうです。

椿堂で少憩して次の休憩は、国道沿いに建つ新しいへんろ小



歩きはじめは、下りから



このグラフは、フィールドアクセスというiPhoneアプリで実際の歩きを記録したものを、カシミール3DというPCソフトで加工したものです。

小屋。小屋の中に干し柿がぶら下がっていましたが、食べるにはまだ少し早いようでした。まさか、だれも手を出していないでしょうね？

遍路道は、椿堂から国道に出て、七田の集落までは歩道を歩きますから、まだまだ平らです。いつも山越え同様、いつどこから登りになるのか、そろそろ気になりだします。

雲辺寺への長丁場

徳島に向かう国道一九二号線の、おそらく愛媛県側最後の集落、すでに山が迫ってきています。国道からその集落に入り、少し歩くと、山道の入り口に古い



遍路道の愛媛終点の「境目」

石の道しるべがあり、いよいよの登りとなります。と思いきや、少し登ると山林作業用と思しき簡易舗装の道に出て、しばらくは落ち葉の積もった舗装道路を歩きます。歩けども歩けども続く舗装された林道に、よくぞこんな山奥まで舗装したものだど驚かされます。

遍路道は、標高五五〇mあたりから舗装道路からそれて、山中に入ります。この山中で一旦徳島県に足を踏み入れ、雲辺寺に向かう車道に出たあたりで香川県に入ったようです。通り過ぎた曼陀峠は、かつて讃岐と阿波とを結ぶ生活道路の峠だったそうです。



まもなく雲辺寺のあたり

期日	曜日	コース予定				食事・宿泊			
1	11月15日	金	各自羽田空港到着、チェックイン	7:20発 羽田空港	ANA583	8:55着 松山空港	9:15発	【歩いた距離】約12.3km	
			空港連絡バス	9:30着	10:20発	JR予讃線	11:11着	11:20発	朝食：松山駅で10:00予約済 鈴木井当店089-984-2100
			JR予讃線	11:31着	11:35発	しおかぜ14号	11:50着	12:40発	
			一歩一歩	13:00着	13:07発	石鎚山駅	約0.8km	64番前神寺	
			約0.8km	石鎚山駅	13:07発	JR予讃線	13:11着	13:24発	
			JR予讃線	13:49着	13:50発	一歩一歩	14:30着	14:40発	夕食：道頓堀0896-58-2838 元祖食へ放題コース 65才以上半額
			しおかぜ18号	伊予三島駅	約3.2km	16:15発	17:00着	戸川公園	
			一歩一歩	15:35着	(15:50全員着)	65番三角寺	約4.0km	スーパーホテル	宿泊：スーパーホテル四国中央 0896-22-9000
			約3.5km	18:30					
				「道頓堀」にて夕食					
2	11月16日	土	6:30	7:15	一歩一歩	7:52発	せとうちバス	8:11着	【歩いた距離】約27.7km
			朝食	イオンにて朝食調達	約0.3km	一貫田バス停	新宮行き	平山バス停	朝食：朝、イオンで調達
			一歩一歩	8:25	一歩一歩	8:55発	一歩一歩	9:25着	
			約1.2km	高知自動車道高架下	約1.8km	榎堂で少憩後出発	約2.8km	下山口へんろ小屋	
			9:35発	一歩一歩	10:50着	12:10	一歩一歩	13:15着	夕食：「時々」（じじ） 0875-25-6511
			下山口へんろ小屋	約4.8km	豊陀峠	各自道中にて朝食	約9.3km	雲辺寺	宿泊：観音寺グランドホテル 0875-25-5151
			一歩一歩	14:00発	一歩一歩	17:00着	白藤大師堂（北峯公民館）	迎車でホテルへ	
			(13:35全員着)	66番雲辺寺	約7.5km	8:00発	一歩一歩	8:40発	【歩いた距離】約20.7km
			宿	一歩一歩	10:50着	11:20発	一歩一歩	11:20発	
			9:20着	9:30発	一歩一歩	10:50着	11:20発	一歩一歩	朝食：道中のサンクスで購入
妙心寺派心光院にて少憩	約6.2km	68番神恵院・69番観音寺	約3.9km	一歩一歩	13:40発				
12:10	12:20	一歩一歩	13:15着	13:40発	一歩一歩				
朝食調達	道端にて朝食	約4.2km	70番本山寺	約2.2km	一歩一歩				
14:10着	14:23発	JR予讃線	15:34着	15:45発	一歩一歩				
本山駅	快速	快速	高松駅	一歩一歩	一歩一歩				
16:15着	16:45発	JAL1410	17:55着	羽田空港					
高松空港						【歩いた距離】約60.7km			

雲辺寺への遍路道からの眺め。はるか遠くの山は剣山か？

曼陀峠を過ぎたあたりで、各自昼食をとるように連絡をとり、それぞれ道端での昼食となりました。天気がいいからなせる技で、雨なら雲辺寺までお預けとなるところでした。

ふたたび歩き始めると、一巡目に登ってきた遍路道と合流。あのきつい登りを避けるための今回のコースでしたが、登りが緩やかな分、距離が長くなるわけで、今回のただらだら登りも、結構こたえるものだと実感しました。

讃岐への関所、雲辺寺

尾根伝いを走る車道と、山道とを出入りしたりしながら、ようやく雲辺寺に到着。先頭がついてから、全員揃うまでに約二十分、それだけきつい道だったことがわかります。七時十五分にホテルを出発

して、八時頃に平山バス停から歩きはじめ、雲辺寺に全員到着したのが午後一時三十五分。ここまで、約5時間半の歩きでした。

ようやく讃岐の国に足を踏み入れたわけですが、車やロープウェイを使わず、歩いたからこそ、雲辺寺は讃岐への関所のように感じられます。

ちなみに、四国八十八か所の標高ベスト3は、

- 第一位 雲辺寺 910m
- 第二位 横峰寺 745m
- 第三位 焼山寺 700m

だそうなんです。

この先の讃岐では、八十八番大窪寺の四四五mが最高ですの



雲辺寺でお参りを終えて・・・。



で、比較的平坦な道が多いはず
です。
先頭組のメンバー
私にとっては、右かかと骨折
後はじめての遍路でしたから、

きついこときついこと、特に最
後の階段は、横歩きで下りるほ
どでした。再び腫れた足も、下
りが酷だったことを物語ってい
ました。

私の後ろからは竜波くん
が従ってきましたが、どう
も足音が一人ではないよう
に聞こえます。さては、つ
いにお大師さんが現れたか
と思ったら、4本足の櫻田
さんでした。両手のストッ
クがあれば、下り坂も難な
く下りられるのです、と豪
語。それに遅れることわず
か、平山さんが下りてきま
した。さすがに最近山登り
しているだけあります。こ
のお二人には、人生の下り
坂は無縁のようです。
というわけで、先頭組
は、テクニクの櫻田、体
力の平山、若さの竜波、そ
れに病み上がりの和尚とい
う取り合わせでした。

(「歩き遍路写真集」よ
り抜粋したものです。)

第13回

参加者募集

約20名

2巡目

四国あるき遍路の旅

二巡目第十三回の参加者を
募集いたします。

十三回目は、善通寺・坂
出・高松周辺を回り、十三か
所の札所をお参り予定です。
これが終わると、あと一回で
結願となります。

来年には三巡目がスタート
します。時間ができたらとお
考えの方は、そろそろご準備
ください。

【日程】二月二十一日(金)
～二十三日(日)

【旅程】

【第1日】 高松空港から琴
平。善通寺をお参りして、七
十一番まで逆打ち。温泉泊。
歩く距離は約12km。

【第2日】 七十四番から七十
九番までお参り。昼食は讃岐
うどん。遍路宿に宿泊。歩く
距離は約20km。

【第3日】 八十番から五色台
を越して、高松市内の八十三
番まで歩いて、高松空港から
帰路。歩く距離は23kmぐら
い。

【参加費】 五万円前後

【申込】 お電話・ファック
ス・メールなどで、お寺
までお申込下さい。

「本山学徒研修会を終えて」

圓福寺学徒 田中 竜波

京都駅で新幹線の扉が開いた瞬間、もわっとした熱気と、ジリジリと日差しが肌に伝わる感覚、祇園祭りが冷め止まぬ大衆の雰囲気は、どこか懐かしに反応しました。

常に人の役に立つ事を考えて、「一拳手一投足」の心で修行した京都。学生時代も含め約十年間、多くの方々を支えられ過ごした第二の故郷です。

この度私は、七月二十三日、二十四日と、一泊二日の本山学徒研修会に参加して参りました。

この研修会の目的は、圓福寺の本山である妙心寺派の僧籍を持つ各お寺のお弟子さんが全国から集められ、一緒に坐禅。禅宗のお坊さんになる為の基礎を作るとても大事な研修会です。内容としては、朝のお勤め・坐禅・作務・講話・食事作法・山内寺院の拝観などでした。

研修会の参加者の中には小学生から高齢の方々まで幅広く参加されており、もちろんお寺の息子さんや、ある

いは在家の方で志をもって仏門に入られた方も見受けられ、総勢十九人のお弟子さんが集まりました。

研修会の始まり

は、大方丈の裏にある微妙殿に集合し、開会式が執り行われました。式には河野太通管長親下はじめ、内局和尚様方々が出頭され、これからの一泊二日の集団生活、和合の尊重が話され、研修会の前日に行われた得度式で、戒律を授けられた沙弥（難僧）（しゃみ）（すうそう）に対しては「自分に厳しく、自覚を持って修行して下さい。」とお言葉を述べられておりました。

その中で私は、印象に残った言葉がありました。「自分の身体は自分のものではなく、お釈迦様からの預かりもん」というお言葉です。私はかつて修行時代の老師に、似たような問題をいただきました。「父母未生（みしょう）以前の自己（いかん）如何」という禅語です。



これはどういう意味かという、自分の父や母が生まれる前、あなたはどこにいたの？という素朴な疑問です。結論からいうと「私が私であると思う私はない」ということです。私という存在は父と母が縁によって出会い和合してできた存在です。そして、その父もそれぞれの縁によって出会い和合してできた存在であると、そうなる今の私はどこにいるのだろうと考えてしまいますが、私という今の存在は過去からの、ものすごい、デリケートな「偶然」の縁によって「存在させて頂いている」のだということ、今を生かされているのだということ、お釈迦様は縁起を説かれています。「これがあるとき、かれがある。これが生じるとき、かれが生じる」と、これまでたった二十九年しか生きていない私ではあります、多様な原因や縁によって、これまで生かされているのだと感じています。

その中でこの研修会という縁で出会った二人の少年がいました。一人は兵庫県からの小学五年生、二人目は愛知県からの小学四年生です。たまたま部屋が一緒で、部屋長を任された私は、はたから外から見ると、保護者ともみえる始末、ここはせっかく同じ部屋になったのだから、彼らを指導しよ

うと思いました。禅寺の生活は、仲間の修行の邪魔をしないように、私語を禁ずる場所があります。食堂と浴室と禅堂のことで、あわせて三黙堂と呼ばれます。食べることもお風呂も坐禅する場所もすべてが修行です。一言も話をしてはいけません。音をたててもいけません。ところが、この研修会を受講したわんぱく小学生のお弟子さんはわかるはずありません。その為、研修会には全国から六名の副住職さんが補佐員として召集され、学徒のお世話を任されています。朝のお勤めに始まり、雲龍図がある法堂での坐禅、禅宗の食事の所作、大方丈での掃除のやり方などなど指導していただきました。が、修行道場を出て間もない私、圓福寺の禅童会を知っている私は、あまりにも愚鈍な指導に対して、ショックを受けました。まだいくら小学生とはいえ、得度を受けた立派な僧侶の卵達に対して、もっと真剣に接してほしいと思えました。感じた事はたくさんありました。食堂での食事の事をお話します。先ほど述べた三黙



堂とありましたが、食堂もそうで、ご飯を頂く時、隣の人と話をしたり、音をたててはいけません。それはこの食卓に並ぶ食べ物に対して、失礼にあたるからです。この食べ物はいくつもの苦勞により作られ、色々な過程を通して、飯台に上がるわけだからこそ食べる時は、食べる事に徹しないとけないのです。禅宗の食事は、持鉢（お鉢が五つあり一つに収納できる物）を使います。直日さんと呼ばれる（修行道場のリーダー）の合図で食べ物に対しての敬意を込めたお経を読み、飯台看（給仕役）に、お椀にご飯を装ってもらい、直日さんの動作に合わせて、ご飯を食べます。小学生諸君は最初に食事作法の指導受けていたのですが、何が何だかわからないなりに食べていました。ある子供または、大人の方々が落ち着きがなく、正座から胡坐になり、話し出す始末で、一体何をしにきたのだと思えました。直日さん含め、補佐員さんがなぜ注意しないのかと思えました。その直日さん補佐員さんは、あ

るお寺の副住職さんで、私と同じく地方の修行道場で修行した人間です。修行した僧侶が一番禅寺の生活を分かっているはずなのに真剣にやれないのかという気持ちと、同年代の僧侶である恥ずかしさ、各お寺での躰の甘さが垣間見え、残念な気持ちで一杯でした。その反面、せっかく研修会にきたのだから、今自分ができる事を考えて、同じ部屋の二人の少年達には、私の気持ち伝えようと思いい、坐禅の組み方や、お経の読み方、食事作法、お風呂も一緒に入って、三人一緒に修行する事ができました。私は圓福寺にきて皆様の御愛顧により、一年経ちました。まだまだの未熟者で、和尚様の背中にかろうじてしてみ付いている日常底であります。圓福寺・市原別院・幼稚園・お寺の行事に参加させていただいております。今回の研修会を通して、これからの出会う縁を大事にし、もっと自分自身が成長しないといけないと感じております。僧侶の使命は布教教化、寺院の護持、衆生の皆様と共に生きていくこととあります。そうなれるように、自分の指針を定め、圓福寺の僧として、自覚し、護持に務めて参りたいとおもいます。



来年も、みんなでおいしく楽しく食べたいなと思いました。あと、一日目で楽しかったことがもう一つあります。夜、みんなといっしょに、「ヒックとドラゴン」という映画を見ました。私しにとって、こわい場面があったので、耳をふさいで、目もつぶったりもしましたが、とてもおもしろかったです。見たあと、スイカのたねとばしをした友だちといっしょにお風呂に入ったり、ふとんの中でおしゃべりをして、一日目はとても楽しかったです。二日目で一番楽しかったことは、うどん作りです。去年も来たのに、しおがいるなんてびっくりしました。こねるとき、おしょうさんがやるとやわらかく見えたのに、自分でこねてみると、かたかったので、びっくりしました。食べる時、みんなといっしょに食べたせいか、いつもよりとてもおいしく感じました。こんなに楽しいこと

	時間	日程	
第1日目	10:00	受付	
	10:15	開会式	
	10:45	準備体操	
	11:00	食事作法の指導	
		坐禅の指導	
	12:00	斎座(昼食)	
	1:00	レク(絵画制作)	
	2:30	坐禅	
	3:30	茶礼(スイカ割)	
	4:30	休憩	
	午後	5:00	お経の練習(般若心経)
		6:00	薬石(夕食)
		6:30	坐禅
		7:30	レク(映画)
8:30		開浴(お風呂)・就寝支度	
10:00		消灯・就寝	
第2日目	午前	5:30	起床・片付・洗面
		6:00	朝のお勤めと坐禅
		7:00	斎座(朝食)
	午前	8:00	レク(灯籠に絵を張る)
		8:30	うどん作り
		9:30	茶礼(茶道体験)
		10:30	うどん作り
		12:00	斎座(昼食)
		1:00	坐禅
	午後	1:30	感想文
		2:30	後片付けと掃除
		2:45	閉会式
3:00		解散	

「仏さまの声」いつも楽しいことばかりなんて、ぜったいありません。苦しいこともあるから、楽しさが大きくなるんだよね。

もあつたけど、苦しいときもたくさんありました。きのうと今日感じた苦しさが、がまん、そして楽しさを、心にやきつけておきたいなと思いました。来年も、禅童会に来て、友だちをたくさんふやしたり、がまんをしたり、楽しく遊んだり、すべてをいっしょようけんめいにやりたいなと思いました。



うどんは、ビニール袋に入れて、足で踏みます。

じはっ
禅宗のエコな食器、《持鉢》



マイ食器のこと。食器・お箸・ふきんとがセットになっていて、布で包んである。3~5個の器は、コンパクトに重ねられるようになっている。食事のたびに使い、食べ終わったらお湯をいただいてきれいに洗い、洗ったお湯もすべていただく。布巾も持鉢といっしょになっていて、洗い終わったら、布巾で拭いて元通り重ねて片付ける。食器を洗う時間や洗剤を使って地球を汚したりする

無駄をなくすことができる合理的な食器。

お箸をテーブルの外に向けて置くのも、テーブルを汚さないという配慮がされている。



穴川風土記



寺から半里

「わが町かど探索」

園生町 熊倉 浩

連続

その1

中世千葉氏と妙見信仰

さてスポーツセンターまで戻る。野球場入口の太木が繁っているところに茅葺の園生八臂弁財天尊のお堂があったが、今は国道から一段高い向かいのちばやま千葉山に移されてある。地元古老によれば私の記憶している弁天池は昔はかなり大きかったらしい。水は葭川へ流



弁財天があったところ。立ち枯れたヒラヤマ杉が見える。

れるとしても入る水は何処から来るのか未だに分からない。それほど地形が変わったということかも知れない。弁財天があったところにヒマラヤ杉の太木が立ち枯れのまま放置されている。ヒマラヤ杉は世の激変を悲嘆するあまり枯死したのだと思う。

前回と重複するが、千葉山は千葉市指定史跡で千葉氏累代の墓地であったが寛文十年妙見堂（現千葉神社）に隣接する大日寺へ墓を移した。かつて十数基の塚があったとされるが今は竹林の中に数基みられるだけである。

正治三年に死亡した千葉介常胤を千葉山に葬ると古文書に云う。かつて大日寺は本町交番から千葉神社前公園一帯の地にあったが戦災を受けて轟町に移った。千葉氏累代の五輪塔（県指定文化財）が並び一見の価値があろう。

千葉山の路

ほしがみのみや

傍に星神宮の祠がある。

平良文以来千葉氏は代々の守護神として



千葉山にたつ星神宮

て妙見尊を信仰し祀ってきた。星神とは北極星を神格化した妙見尊のことであるがもとを辿れば壮大な物語となる。ユーラシア大陸を縦横無尽に移動しながら生活していた遊牧騎馬民族の信仰で、はるか有史以前すでに大陸・半島から日本に伝わったという。広大な平原では方位が確認できる北極星こそが遊牧民にとって唯一の拠りどころであった。それは今日の文明社会でも変えることはない。星神宮の祠の真裏に最大の塚があるが藪で道路からは確認できない。

中世千葉氏の本拠であった千葉は妙見尊を中心に門前町を成し大いに栄えた。現在の千葉神社である。もともと北斗山尊光院金剛授寺というお寺であり妙見尊を祀る妙見堂があった。明治維新、薩長政府の神仏分離令により古事記・日本書紀の神々を祀れとの復古主義が強制された。妙見尊とはケンカラン、記・紀にある宇宙を司る天地創

園生の森公園



あやめ台小学校の隣が園生の森公園（旧園生市民の森）である。四季折々、格好の癒しの空間だ。森の中にも塚がありこれも千葉山塚群の一部といわれる。記録によれ

園生の森から長沼・犢橋へ

【参考】 和田「社寺より見た千葉の歴史」昭69・千葉市教育委員会刊

造の神は天御中主命、これぞすなわち北斗星の神である。明治元年お寺から天御中主命を祭神とする神社にさせられた。神社の縁起・由緒のパンフレットにはこれらのことは一言も触れていないし神社に聞いても応じてくれなかった。地元では今でも千葉神社とは云わず妙見様が一般である。

余談ながら戦後大分経ってから近代的な今の新社殿が建てられたが、多分ここだけと思われる珍しくも不思議な二階建てである。一階は天御中主神を、二階は妙見様を祀っている。信心深い千葉ツ子はどう思っているのだろうか知りたいものである。

あめのみなかぬしのみこと

園生の森公園のビオトープ



よく遭遇した森であった。いま周囲は家であらうので蝮はいないがいてもおかしくない環境である。数年前市によって再整備され水場、ビオトープ、木橋などが造られた。毎月一回「園生の森を育てる会」が草刈りや枝木の片づけなどをしながら花を植え自然観察会を行っている。会の皆さんは蝮を見たことないというからもういないだろう。ご安心あれ。

ば二基あ
るはずだ
が消滅し
たのか一
基しか見
当たらな
い。四十
年前は今
ほど樹木
が整備さ
れず、ま
まむし

ファミールハイツの真下で公園になっているが「園生池」の跡である。平成五年版の国土地理院地形図には池とそこから流れる草野水路が読めるので埋め立てられたのはそれ以後かと思われる。池は姿を消し水路の壁は鋼矢板とセメントで固められ海まで続いている。蛙のコーラスが聞けた谷津田にはマンションが立ち並んでいた。そこから上流三〇〇mほど行くと水路は暗渠となり地中にもぐりその先は地図でも探ることはできない。草野水路というから草野の方に違いなからう。

そのうけ

こやいた

園生池跡の公園



ない。やがて千葉北高校への道に出るが付近の森はあとかたもなく殺風景な通りとなった。この広い一帯は比較的新しい住宅街で宮の杜という。

北高校が見えるころ両脇の畑は昔とあまり変わらないが違うのはこま切れの小区画にされた市民菜園となっていた。千葉都市計画長沼町第十八生産緑地地区であった。

考古学の権威・武田宗久先生（県立千葉高校・市埋文センター）と歩きながらこの近くまで来たとき先生は目ざとく畑の中の白い物を見つけた。雨後はいろんな物が地表に浮き出る。気がつくにあちこち無数見つかった。先生は手にした貝殻を観察しながら若しかしたら貝塚かもしれない、調査せねば・・・とつぶやいていた。

東京湾からのぼる宮野木谷はすぐこの下まで入り付近は縄文遺跡が多くて貝塚があっても不思議ではない。その後どうなったか伺うことなしに先生は間もなく逝かれた。後年センターに問い合わせたらそのような話は誰も先生から聞いていなかったという。気をつけて見まわしたが畑は一変していて貝殻は見つからなかった。先生には幻の貝塚だったか。私にとっても夢の貝塚である。

奥の院馬頭観世音と石造の絵馬

北高校正門を過ぎると宮野木スポーツセンターからの道に出る。緑が丘中学校が見えた。左へ一〇〇m、馬頭観音のお堂がある。これから行く「駒形観音堂」の奥の院である。鳥居の額東には「奥の院馬頭観世音」とある。鳥居やお堂の形からみて神社とわかるが、祀られているのは馬頭観音で奇妙に見えるかもしれないが、神仏習合の姿を今に留める。本来「駒形千軒奥の院」と云うそうだ。中に入ってビックリ、百数十枚の石造の絵馬である。はて？これは碑ではないか！



石造の絵馬

【磚(せん)】磚 甃とも書く。

板状につくった粘土を焼成した煉瓦・タイルのこと。中国春秋時代から確認されていて、戦国時代には宮殿の床敷などに用いられた。

朝鮮では楽浪郡時代の遺跡から出土、統一新羅時代の宮殿では華麗な文様磚に発展する。

日本では朝鮮から伝えられ奈良県小墾田宮や大宰府都府楼はじめ各地の寺院の床や基壇に用いられるようになった。



江戸時代から奉納されてきた石の絵馬は現在も続いているらしく前より増えていた。昭和五十三年のものや最新では平成二十一年の絵馬があった。昔町も村も生業には馬は欠かせない重要なパートナーであった。地元の厚い信仰によって神社は守られている様が見える。生き生きと飛び跳ねている馬の絵(レリーフ)をみているだけで飽きない。

戦時には農家が飼っている馬が大量に軍によって徴発されて征った。戦争が終わると命永らえた人間は復員帰国したが軍馬は一頭たりとも帰ることはなかった。私はお寺の近くにある軍馬慰霊碑を想定して戦時に関係する標識はないかと探したが見つからなかった。この辺の農馬も徴発されたはずだが・・・その代わり競馬の碑があったのには些か苦笑し今という時代を感じた。

馬頭観音を出ると路上で農家のおばちゃんやと逢う。よくしゃべるので時間のロスとも思ったが話を聞くことにした。毎月氏子が集まってお茶の接待をするから来てくれと言われた。この馬頭観音のお堂の下には、徳川家康が東金に鷹狩りに向かう折、死んだ乗馬が葬られているという。そして御成街道の話を持ちかけると、いまの道は最近

御滝権現社



の新道であって本当はこの道だと何度
も強調する。俄かには信じ難いが、伝
説はさておき地元の見解は尊重せねば
なるまい。尤もこの延長上に犢橋の三
社神社や長福寺、天戸の福寿院、花見
川の子安神社、実初の大原神社など点
在しているが、もともと御成街道は直
線に造られている。また家康さんは馬
には乗らず籠であつたとおぼちゃんに

は言い出しにくく引っこ
めた。
おぼちゃんとは別れると
すぐ御滝権現を祀る御滝
神社の前に来た。南向き
だった社殿は新しくなり
東の道路に面し参道も整
備されていた。周りは畑
と荒地地だったが密集し
た家々（ここも宮の杜）
で景観が一変している。
この神社にも家康さんが
東金に向かう途中滝の水
で渴きを癒したとの伝説
がある。神社の裏五十
m
のところまで犢橋の谷が
深く入り込み垂直に切り
立っている。水が湧く地
形とみた。喉を潤す水場
などあろうはずもないと
長い間の疑問が氷解し
た。そこを頭に谷津田が
西に延びはるか先に東関
東道の料金所が見えた。
以前は荒地地とブッシュ
で踏み込めなかつたが宅
地開発で作られた「宮の杜
けやき公園」という小公園
からいとも簡単に観察
が出来たのは幸いであつた。



(次号につづく。)

(11月の「園だより」から)

げん 体験

年長さんの忍者屋敷づくりの活動が、園庭でも展開されて、園庭にログハウスが出現しました。(いずれネイチャーランドに引越しますが・・・)

子ども遊びの中に、秘密基地づくりや隠れ家なんていうのがありますが、そんな場所も消えつつあり、もっぱら、テレビゲームやパソコンのゲームの中のことになりつつあります。かつては実際に基地を作ったり、隠れ家で遊んだりできたのですが、今ではバーチャルな疑似体験ばかりで、減(げん)体験、体験が減っているのが現実です。

年長さんの忍者屋敷づくりも、「秋たんけん」でのお芋掘りも、砂場での遊びも、毎月のプールも、また、年中さんのピザづくりやおにぎりづくりも、「原(げん)体験」と言えます。

地球上に人類が現れ、住まいを



作ったり、土の中から食べ物を探し出したり、土器や刃物をこしらえたり、水の中にもぐったり、火を使って食べ物を作ったりすることを身に付けてきました。人類が長い年月の間に体験を通して身に付けてきたものを追体験することを、「原(げん)体験」といいます。

雨風をしのいで、獣などから身を守ることでできる住まいを作ることや、野山に出かけて食べ物を採集すること、それを火で調理したり保存したりすること、食べ物を栽培することなどは、人間が生きていくうえで不可欠なことばかりです。算数だ、英語だ、漢字だ、なんていう以前の、生きるための術です。その術を駆使できる人間は、まさしく、生きる力



を持っていると言われたことでしよう。さて、この「原体験」をいつやるのか?もちろん、幼児期の「今でしょ!」

人類が生きていくうえで手に入れたことを思い起こせば、原体験は8つに分けられます。火・水・土・石・木・草、そして暗闇や飢え・渴きというゼロ体験です。これらを幼児期の今に体験することが、生きる力を身に付ける最良の方法なのです。

生まれ育った田舎の風景を思い出して、ふるさとの原風景といいます。原風景を思い出すと、懐かしさだけでなく、生きる勇気が湧いてくる気がするのは私だけではないと思います。原風景に対して、原体験を考えてみると、幼児期の原体験の豊かさが生きる勇気や生きる力に直結してくることは疑う余地がないような気がします。

減体験と原体験、どちらでお子さんを育てますか?



第37回花園会ゴルフ大会

10月22日 於：源氏山ゴルフクラブ

雨海さん連続優勝!

第三十七回の大会を十月二十二日に、市原別院に隣接する源氏山ゴルフクラブで開催いたしました。参加者は、女性二名を含めて十六名で、成績は表の通りです。雨海さんの連続優勝となり、次回、だれが雨海さんの連続優勝を阻止するか、楽しみです。

参加者の罰金も併せて、あしなが育英会の東日本大震災津波遺児募金に、二万二千六百円募金させていただきました。

		グ	ハ	ト
		グ	ハ	ト
優勝	雨海 宏明	96	21.6	74.4
準優勝	松丸 正憲	94	19.2	74.8
3位	小山 稔	91	15.6	75.4
4位	佐藤 征吾	91	15.6	75.4
5位	吉村 利晴	103	27.6	75.4

□□境内墓地のご案内

境内の墓地に空きができましたので、ご希望される方がいらっしゃいましたらお申し込みください。

- ◇募集期間・・・先着順
- ◇募集区画・・・一区画
- ◇区画面積・・・
- 奥行 85 cm × 幅 90 cm
- ◇永代使用料・・・百万円
- ◇応募資格・・・
- (過去の宗旨・宗派は問いません。)
- ◇建墓条件・・・
- 丘カロート式です。
- 墓石については特に条件はありません。

いつでもご自由にご見学ください。また、ご不明な点はお寺までお問い合わせください。



市原別院だより

一一山野僧維記

市原別院耕雲寺の畑には、毎月、穴川花園幼稚園の親子が、「Q園隊」というボランティアに来て、さつまいもの苗植えや草取り・土寄せ、落ち葉集め、薪割りなどを手伝ってくれています。その労をねぎらう収穫祭には、総勢四百人も集まります。

その人数が車でやってきましたが、広い敷地なので駐車に困ることはありません。みなさん行儀よく、原っぱにきちんと整列して駐車してくれます。しかし、駐車している場所が子どもたちが遊ぶ原っぱと境がないので、万が一事故では起きてはたいへんです。

そこで、駐車スペースと原っぱとの境界を明確にしようと思いました。ユニボと二トンダンプを駆使して、駐車スペースを作るために土を運び、整地しています。ユニボの腕は上がりましたが、まだまだ完成には至りませんが、その間に草は伸びますので、原っぱの草刈や、幼稚園の子どもたちが忍者屋敷を作るなどと言いついて、その手伝いなど、仕事は尽きません。

平成26年年回表

百回忌	五十回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	回忌
大正四年	昭和四十年	昭和五十七年	昭和六十三年	平成四年	平成十年	平成十四年	平成二十年	平成二十四年	平成二十五年	亡くなった年

法要の会場として、どなたでも本堂がご使用できます。お参りの方はすべて椅子席ですので、ご安心下さい。また、法要後のお膳のご用意もできますので、お気軽にご相談ください。

平成二十五年下半期 お寺と和尚の記録抄

7月	20日～21日	第二十二回「禅董会」
	23日～24日	本山学徒研修会（竜波禅士）
	25日	NHK文化センター「坐禅講座」
8月	2日	月例役員会
	3日	木更津栢安寺施餓鬼（竜波禅士）
	4日	写経会
	8日	スマートコミュニティ「写経講座」
	9日～16日	8月盆棚経
	14日	佐倉報恩寺施餓鬼会
	15日	佐倉宝樹院施餓鬼会
	16日	佐倉円心寺施餓鬼会
	17日	四街道清久寺施餓鬼会
	18日	取手長禅寺施餓鬼会、法話
9月	22日	NHK文化センター「坐禅講座」
	24日	地藏盆
	6日	写経会
	11日～13日	月例役員会
	16日	前堂職研修会於本山（竜波禅士）
	20日	スマートコミュニティ「写経講座」
	26日～27日	根岸円光寺秋彼岸会、法話
	29日	幼稚園入園説明会
10月	4日	講座「住職学」於南禅寺（竜波禅士）
	6日	富浦満蔵寺施餓鬼会（竜波禅士）
		月例役員会
		写経会
7月	9日	東京教区法式研修会（竜波禅士）
	10日	スマートコミュニティ「写経講座」
	12日	幼稚園運動会
	17日	幼稚園 達磨忌
	21日	スマートコミュニティ「写経講座」
	22日	第三十七回花園会ゴルフ大会
	25日～26日	足利光得寺先住職三十三回忌
	27日	涅槃精舎毎歳法要・布薩会
11月	1日	土曜会 涅槃寄席 瀧川鯉昇師匠
	1日～2日	月例役員会
	1日	世田谷龍雲寺晋山式（竜波禅士）
	3日	幼稚園 入園手続き
	3日	写経会
	9日	市原別院耕雲寺収穫祭
	14日	スマートコミュニティ「写経講座」
	15日～17日	二巡目第十二回四国あるき遍路の旅
	28日	スマートコミュニティ「写経講座」
12月	3日～4日	月例役員会
	5日	スマートコミュニティ「写経講座」
	7日・8日	幼稚園 おさらい会
	12日	幼稚園 成道会
	13日	幼稚園 もちつき
	14日	土曜会 歳末ボランティア大掃除
	26日	スマートコミュニティ「写経講座」
	31日	年越しまいし

平成二十六年
年間行事予定

5月 21日 第三十八回 花園会ゴルフ大会	4月 8日 降誕会(花まつり)	3月 28日~30日 冬の寺子屋 和尚と滑ろうin苗場	18日~24日 春彼岸	16日 彼岸会法要	2月 21日~23日 二巡目の第十三回 四国あるき遍路の旅 一〇ページのご案内があります。	5日 涅槃会 お釈迦様のお亡くなりになった日。涅槃図の掛け軸を掛けて法要をします。	19日 花園会新年会 二十ページのご案内をご覧ください。	1月 1日~3日 新年修正会 仏教興隆・国家安泰・五穀豊穣・檀信徒各家の繁栄などを祈禱する法要をしています。この修正会で祈禱した「般若札」は、寺報・カレンダーなどと一緒に、みなさまにお届けいたします。
--------------------------------	-----------------------	--------------------------------------	----------------	--------------	---	---	------------------------------------	---

10月 17日 第三十九回 花園会ゴルフ大会	5日 達磨忌 禅宗初祖「達磨大師」の命日。	8月 23日 地藏盆 子どもたちの楽しいお盆の行事です。夜店や野点・ゲーム大会などで盛り上がる夜祭りです。併せて、地藏盆の法要で水子・ペット・人形供養も行います。	9日~16日 八月盆の棚経 八月盆のお宅に棚経にお伺い致します。	26日~27日 圓福寺寺子屋「禅童会」 一泊二日の子どもたちの坐禅会です。坐禅だけでなく、楽しいゲームやいろいろな体験もできます。たくさんさんの参加を待っています。	7月 11日~16日 七月盆の棚経 七月盆のお宅に棚経にお伺い致します。	6日 山門施餓鬼会	5日 初盆・新入檀信徒施餓鬼会 この日は、初盆のほとけさまと、圓福寺と新しくご縁のできたほとけさまの施餓鬼会をいたします。あらためてご案内を差し上げます。
---------------------------------	-----------------------------	--	--	--	---	--------------	---



釈迦苦行像【圓福寺蔵】

12月 31日 年越しまいり	20日 歳末ボランテラ 花園会忘年会	8日 成道会 お釈迦様がお悟りを開かれた日です。	11月 14日~16日 二巡目の第十四回 四国あるき遍路の旅	7日 市原別院収穫祭	10月 25日 土曜会「涅槃寄席」 永代供養の方々の法要と、生前戒名の授戒会。	25日 涅槃精舎毎歳法要
----------------------	--------------------------	--------------------------------	---	---------------	--	-----------------



——圓福寺では、毎年、和やかな楽しい新年会をしております。たくさんのお越しをお待ちしております。

圓福寺とご縁のあるみなさんは、千葉という地域柄、全国各地のご出身の方がほとんどです。北は北海道、南は九州沖縄までという決まり文句の通りです。

石川啄木がふるさとの訛りを上野駅に聞きに行きましたが、圓福寺の新年会に来れば、全国のお国言葉を聞くこともできます。

どうぞ、お気軽にお寺の新年会にお出かけ下さい。



平成26年
西暦2014年
仏暦2557年



- 河西達雄
- 福田和夫
- 平山 実
- 塩月高泰
- 菅野光夫
- 稲田陽英
- 高橋敏勝

圓福寺住職

宮田宗格

圓福寺花園会

日時 一月十九日(日)

午前十一時 新春ご祈禱
正午 新年懇親会

会費 三千円

(ご祈禱料、お守り、お膳・飲み物代を含みます。)

会費は当日受付です。

申込 電話・ファックス・メール

などで、お寺までご連絡下さい。